

平成 19 年 8 月 8 日

ダイビル株式会社
代表取締役社長 佐藤博之 殿

社団法人 日本建築学会近畿支部
支部長 渡邊史夫

新ダイビルの保存に関する要望書

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、貴社におかれましては、新ダイビルの建て替え計画にともない、本建築を解体撤去の予定である由、拝聴しております。

ご承知のように、新ダイビルの建物は、別紙「見解」に記しますとおり、二十世紀日本を代表する建築家・村野藤吾（1891～1984）の傑作の一つであり、また竣工後約 50 年を経た歴史的建造物として、きわめて価値の高いものです。建物の立面は、どこから眺めてもシャープな美しさをたたえ、屋上には大都市の中心部とは思えぬほど緑豊かな庭園を備えています。建物の隅部には人々を和ませる羊の彫刻を配し、また屋内は大理石貼りの見事な空間が広がっているなど、村野藤吾のデザインの魅力が存分に発揮されています。また堂島川にその美しい立面を向け、水都大阪の象徴として広く社会に知られてきたものであり、多くの点から見てかけがえのない建築であります。

近年では、建築資源の有効活用の視点からも、こうした大規模な鉄筋コンクリート造建築は、構造体の補強および機能に応じた整備によって長寿命化を図り、新たに活用してゆくことが求められております。

この文化的資産ともいえる建築を保存し活用を図るための方途を積極的にご検討いただき、貴重な文化財保存が果たされますようお願い申し上げます。

なお、本会はこの建築の保存に関して、技術的支援などできます範囲でお手伝いさせていただきますと考えておりますことを申し添えます。

今後とも、この優れた由緒ある建造物と環境の保全に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成 19 年 8 月 8 日

新ダイビルについての見解

日本建築学会近畿支部
近代建築部会 主査 橋寺知子

・建物の概要

大阪市北区堂島浜 1 丁目 2-6 に所在する本建築は、1958 年(昭和 33 年)に竣工し、1963 年(昭和 38 年)には増築がなされている。鉄骨鉄筋コンクリート造地上 9 階建て地下 4 階、塔屋 4 階を有する建築で、1963 年増築後の建築面積 2405 平米、延べ床面積は 54,400 平米を有する。設計は村野・森建築事務所(村野藤吾) 施工は大林組による。

竣工後、オフィス空間のインテリアが改装されているが、建物の外観はほぼ竣工当時のまま残されているほか、屋上庭園、内部の廊下や階段、エレベータ周辺、建具の一部などは、竣工当時のまま残されている。全体としては良好に維持活用されている。

・村野藤吾の作品としての価値

村野藤吾は、1918 年に早稲田大学建築学科を卒業後、「綿業会館」(重要文化財・1931 年)などで知られる渡辺節が主宰する渡辺建築事務所に入所し、それ以来大阪を拠点とする。1929 年には村野建築事務所を開設し(1949 年に村野・森建築事務所に改称) 商業施設、オフィスビル、住宅、学校施設、美術館など、全国各地で数々の建築の設計を手掛けた。その作品は日本建築学会賞や日本芸術院賞を受賞している。また村野は、1955 年には日本芸術院会員となり、1967 年には文化勲章を受章するなど、戦前戦後を通じて日本を代表する建築家として、揺るぎない評価を得ている。日本建築家協会会長、イギリス王立建築学会名誉会員、アメリカ建築家協会名誉会員としても活躍した。

2005 年には宇部市渡辺翁記念会館(1937 年竣工)、2006 年には広島世界平和記念聖堂(1953 年竣工)が、それぞれ国の重要文化財に指定されるなど、近年、村野藤吾作品は文化財としての価値も広く認められてきた。

新ダイビルは、鉄やガラス、コンクリートによる抽象的な形態を用いた、いわゆるモダニズム建築である。しかし、輪郭が非常にシャープであり、また細部まで極めて高い精度で丁寧に設計されているなど、戦後の近代建築史上においても最高峰の緻密さと美しさを誇っている。さらに、建物の隅部には羊の彫刻が設置され、屋内では壁面や階段に凝ったデザインをちりばめるなど、現代建築がしばしば陥る無味乾燥さを無縁なものとしている。

村野は、無装飾のモダニズム建築が台頭する 1930 年代にあって、モダニズムに基づきながらも、建築が民衆に親しみやすいものとなるよう、建物の立面のデザインや装飾の重要性を説いていた。新ダイビルにも、そうした村野の意識がしっかりと息づいている。同じ 1958 年に竣工した大阪新歌舞伎座とともに、大阪に立地する村野作品の中で最も広く知られた存在である。

新ダイビルは、数多くの村野藤吾の作品集の多くに掲載されており、本建築は村野の代表作として位置づけられている。また、本建築の設計図は、その草案などとともに京都工

芸繊維大学美術工芸資料館に収蔵されている。

・デザイン上の価値

新ダイビルは、ボリュームのある重厚な建物であるが、水平に連続する横長窓が壁面を覆い、その窓と壁の面（つら）が揃っているため、その立面は張り詰めた薄く軽い皮膜のように見える。そこには洗練されたモダニズムの美がある。

また屋上には庭園が設けられ、オフィスビルとは思えぬほど樹木が生い茂っている。コンクリートによる抽象的な形態のオブジェもある。こうした手法は近代建築の巨匠ル・コルビュジエに先例があるが、模倣に終わることなく村野独自の効果を生んでいる。

さらに道路に面した建物の途中階には、所々に羊の彫刻が設置され、見る者の心を和ませる。そして屋内では、大理石貼りの濃厚な空間が広がり、階段の手摺りやドアの取手には細密なデザインが見られる。

このように新ダイビルは、同時代のオフィスビルの多くが機能性だけを重視したデザインになっている中で、十分な機能性を持ちながら、洗練された美しさ、自然の豊かさ、細部の丁寧さ、くつろいだ楽しさまでもが備わっている。戦後の建築であるが、文化財たるべき価値を十分に有すると言える。

・景観上の価値

新ダイビルは、堂島川に沿った敷地にあり、川に面して水平連続窓が積み重なった美しい立面を向けて建つ。大阪のビジネスの中心地であるため、周囲には多数のオフィスビルやホテル、商業ビルなどが立地するが、そのなかでも際立って優れたデザインを誇るものとなっている。川の対岸には日本銀行大阪支店（辰野金吾設計、1903年）が建っており、両者相まって、商都大阪、水都大阪を象徴する景観を作り出している。このように中之島の歴史的景観を支えるという点からもきわめて重要な建築である。

